



「道の駅」について

<目次>

- 「道の駅」の目的、機能、登録要件等
- 「道の駅」の今後の展開

平成25年11月5日



「道の駅」の目的と機能

「道の駅」の目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

「道の駅」の機能

休憩機能

- ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能

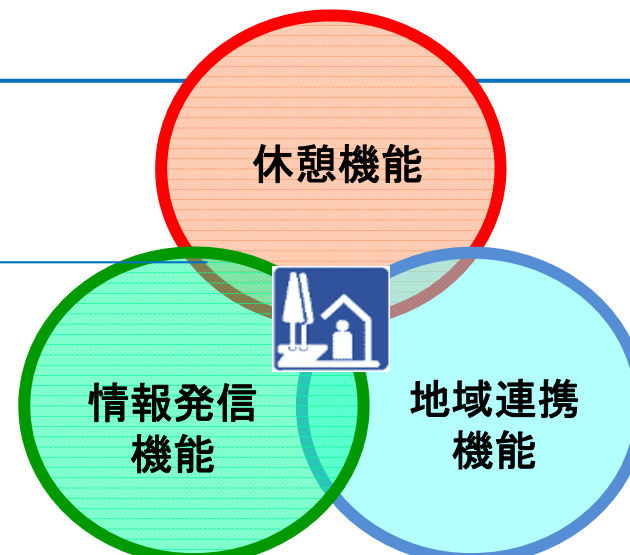
- ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

地域連携機能

- ・文化共用施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

「道の駅」の基本コンセプト

地域とともに作る
個性豊かな
にぎわいの場



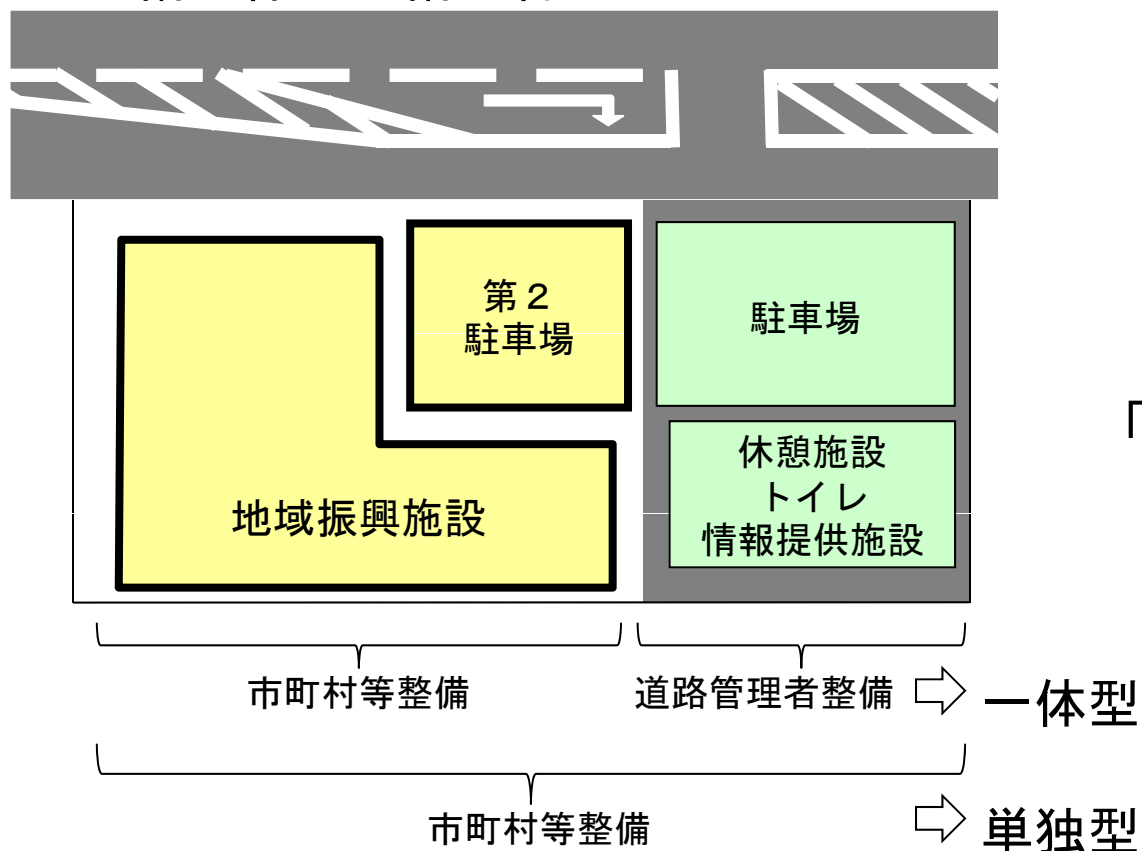
災害時は、防
災機能を発現



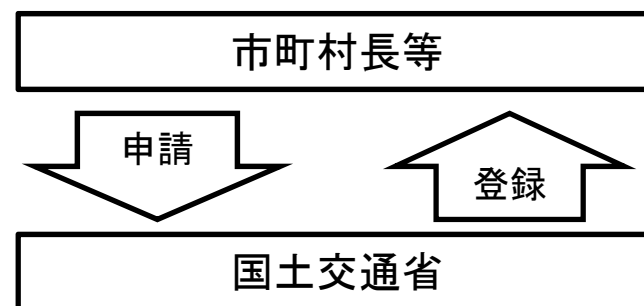
「道の駅」の設置者、登録方法

- 「道の駅」は、市町村又はそれに代わり得る公的な団体が設置
- 登録は、市町村長からの登録申請により、国土交通省で登録
- 整備の方法は、道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の2種類

整備主体と整備内容



「道の駅」の登録手続き



「道の駅」の登録数

平成25年10月現在

「道の駅」総数1,014駅

うち一体型：586駅(58%)

うち単独型：428駅(42%)



「道の駅」の登録要件

■休憩機能

◇駐車場

- ・利用者が無料で24時間利用できる十分な容量を持った駐車場

◇トイレ

- ・利用者が無料で24時間利用できる清潔なトイレ
- ・障害者用も設置

■情報発信機能

- ・道路及び地域に関する情報を提供（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等）

■地域連携機能

- ・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

■設置者

- ・市町村又は市町村に代わり得る公的な団体

※市町村に代わり得る公的な団体とは（以下のいずれかに該当）

イ. 都道府県

ロ. 地方公共団体が三分の一以上を出資する法人

ハ. 市町村が推薦する公益法人

■その他配慮事項

- ・施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化



広く浸透した「道の駅」

- 「道の駅」は、制度発足から20年、全国各地に広がり、現在1000を超える施設が登録されている。売上高は大手コンビニチェーン並の規模となっている。
- 当初は、通過する道路利用者へのサービスが中心であったが、近年は、農業・観光・福祉・防災・文化など、地域の個性、魅力を活かした様々な取り組みが進められている。

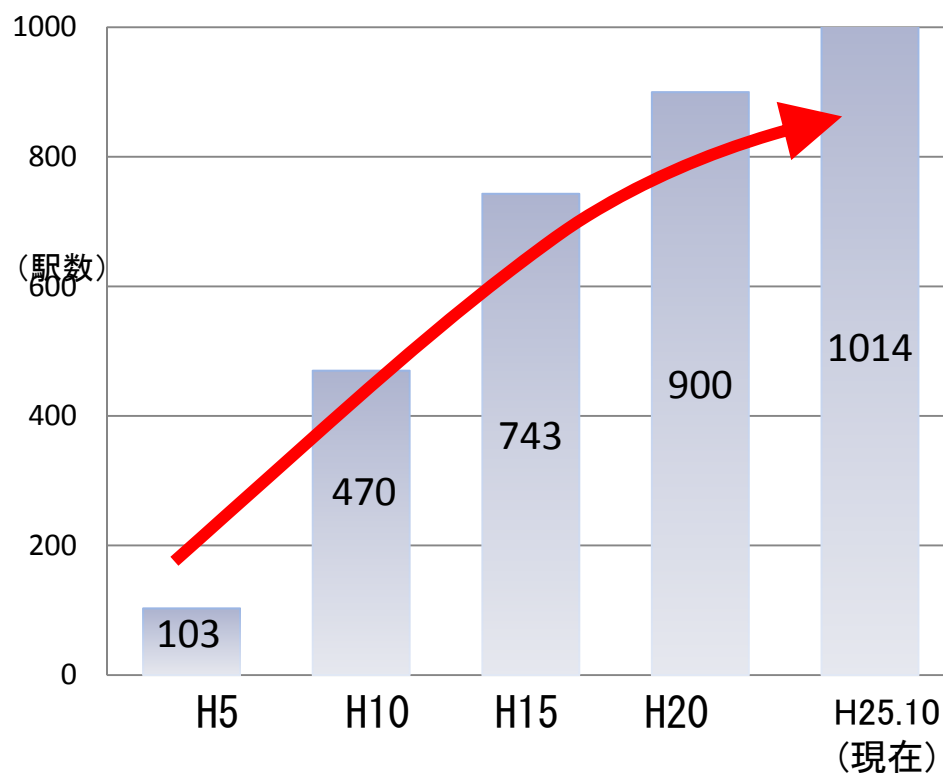
<「道の駅」の現状>

- 登録数 (H25. 10) 1,014駅
- 年間売上額 (H23) 約2,100億円
- 年間購買客数 (H23) 約2億2000万人

地域別の登録数内訳

地域	登録数	地域	登録数
北海道	114	近畿	120
東北	142	中国	94
関東	149	四国	80
北陸	74	九州	115
中部	119	沖縄	7

<「道の駅」登録数の推移>





「道の駅」の地域の個性、魅力を活かした取り組み

【地域経済】 ○全国規格品ではなく **地元産品を販売**
○隠れた**地元の魅力**を商品化

【観 光】 ○地元が知る地域の**名所**を活かした観光

【福 祉】 ○中山間地にも立地、**地域の生活機能の拠点**

【防 災】 ○震災時には、**防災拠点、唯一の販売所**に

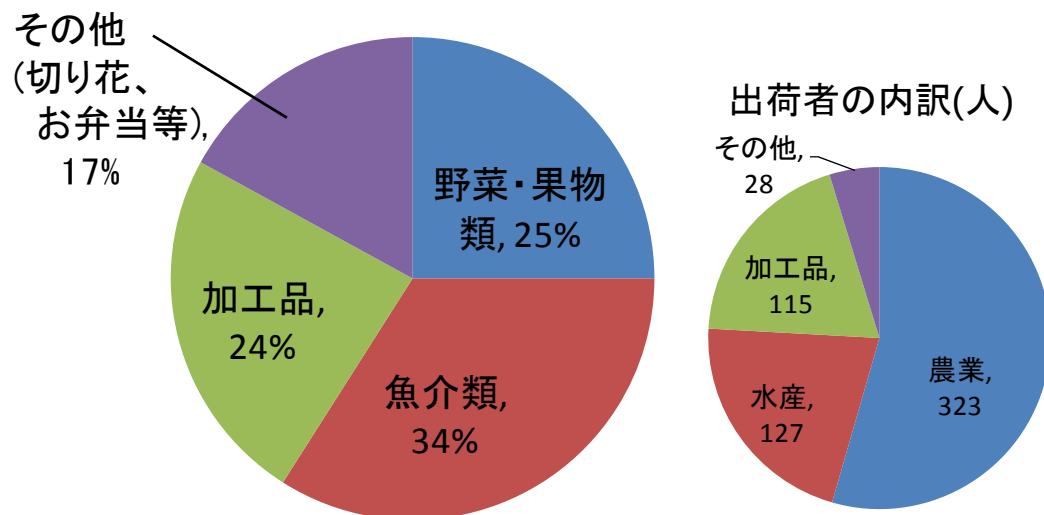
【文 化】 ○被災の記録を伝承、**復興のメモリアル**
○地域の**伝統文化等の伝承**の場



【地域経済】 全国規格商品ではなく、地元産品を販売

- そこでしか買えない農水産品など、**地域産品を販売**
- 流通ルートに乗らない、少量産品**も取扱い → 高齢者も出荷可能なシステム

■農水産品など取扱商品の99.9%が地元産品



○年間売上約16億円、購買者数約75万人



【「むなかた」(福岡県宗像市)】

■少量農産品の集荷も実施 町内5割(250戸)の農家が出荷



【こはん さと ふくとみ ひがしひろしま
「湖畔の里福富」(広島県東広島市)】



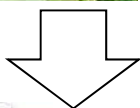
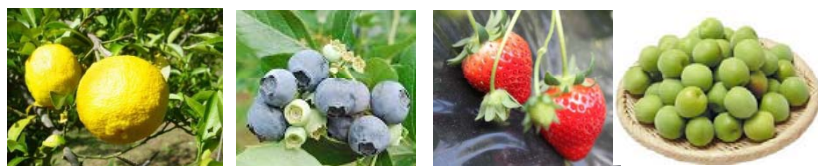
【地域経済】隠れた地元の魅力を商品化

- 特産品の生産指導、加工工場の運営、販売まで実施。
- 町の特産物の6次産業化、農業の発展を支える。

■地元の特産品を「道の駅」で加工
18種類の新商品を開発、販売まで実施

■季節の農産物にあわせて加工商品を開発・販売
出荷会員数400名、年間売上7億4千万円

<茂木町特産品>



・町内で梅の商品化は
「道の駅」のみ



【「もてぎ」(栃木県茂木町)^{もてぎ まち}】

- ・町内果樹生産額約 10億円のうち、13%
町内野菜生産額約4.1億円のうち、28%
を「道の駅 からり」で販売

・内子町特別栽培農産物等の認証を受けたものを使用した加工品



【「内子フレッシュパークからり」(愛媛県内子町)^{うちこ ちよう}】



【観光】 地元が知る、地域の名所を活かした観光

- 観光コンシェルジュを配置し、地元ならではの見どころ情報を案内
- 旅行業資格を取得、中山間地の特性を活かした旅行ツアーを自ら企画・販売
- 「道の駅」での農産品販売をきっかけに宿泊農業体験など、交流拡大にも展開

- 観光コンシェルジュが常駐
摩周湖の見え具合も案内
H23年8月には1,444人利用



ましゅう おんせん
【「摩周温泉」
てしかが ちよう
(北海道弟子屈町)】

- 「道の駅」での対面販売をきっかけに、消費者との交流が宿泊農業体験へ発展
○年間体験者約4000人、
約160件の農家が旅館業許可を取得



おか こうえん
【「マオイの丘公園」
ながぬま ちよう
(北海道長沼町)】

- 旅行業資格を取得、森林セラピーを売りにしたツアーなど、自ら企画・販売
(年間40企画、旅行客数約1,500人)



あかぎ こうげん いいなん ちよう
【「赤来高原」(島根県飯南町)】

- 「道の駅」拠点に地域の歴史・文化を知るツアーを実施
加賀百万石ウォーク、H24年度は約100人が参加



いっこういっき さと はくさん
【「一向一揆の里」(石川県白山市)】



【福祉】 中山間地にも立地、地域の暮らしの拠点

- 買い物弱者への日用品**宅配サービス**、独居老人の**安否確認**等も実施
- 行政窓口、診療所、集会所、公共交通停留所等を設置、**地域の暮らしの安心を支える拠点**に。

■集荷を利用した**宅配サービス**
町内の高齢者世帯の約1割(約50世帯)が利用

【「インフォメーションセンターかわもと」(島根県川本町)】

■中学校跡地を利用し、**地域の暮らしに必要な機能**を設置



【「瀧之拝太郎」(和歌山県古座川町)】

■**高齢者等の足となる乗り合わせタクシーの停留所**を設置

【「美濃にわか茶屋」
(岐阜県美濃市)】





【防災】 震災時には、防災拠点、唯一の販売所に

- 大規模災害時には、避難場所、災害支援、道路・被災情報発信等の拠点。
- 東日本大震災では、流通経路が寸断される中、地元農家の出荷により、震災一週間後には食料を町で唯一販売。

■ 自衛隊の復旧支援活動の拠点として機能



※写真提供：東北「道の駅」連絡会

つやま とめ
【「津山」(宮城県登米市)】

■ 震災後、地元農家の出荷により 1週間で営業再開 町で唯一の食料・日用品販売店



※写真提供：東北「道の駅」連絡会

やまだ まち
【「やまだ」(岩手県山田町)】



【防災】被災の記録を伝承、復興のメモリアル

- 震災の教訓、道路啓開等の経験の展示・発信
- 復興祈念施設、防災公園等と合築 ＜計画構想中＞
- 被災経験・教訓を後世に伝承し、地元の復興の思いや力を発信

■「道の駅」の再構築を核に、災害経験、教訓を複合的に伝承、発信

被災した「道の駅」



【 たかたまつばら
「高田松原」
りくぜんたかた
(岩手県陸前高田市)】

奇跡の一本松



震災後の周辺状況

震災伝承コーナーの設置



震災パネル等の展示

【 とおの かぜ おか
「遠野風の丘」
とおの
(岩手県遠野市)】

被災した道路標識・パトロールカーを展示



【 しょうぼん さと
「上品の郷」
いしのまき
(宮城県石巻市)】



【文化】地域の伝統文化を伝承する場

○地域の伝統芸能を継承する団体に、公演活動の場や練習場所を提供し、**伝統芸能の保護や若手育成に寄与**

■南房総人形劇フェスティバルの開催、伝統工芸の発表の場を提供

富浦人形劇



南房総の伝統工芸
浮書絵彫展示会



【「とみうら」(千葉県南房総市)】

■芸北神楽(広島県無形民族文化財)
の定期公演(毎月)

神楽開催場所

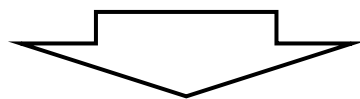


【「ふおレスト君田」(広島県三次市)】

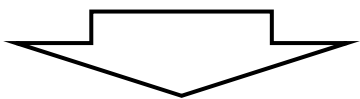


「道の駅」の強みと可能性

- 一つ一つが異なること(画一化されていない)
- 地元と一体となったシステムとなっていること



○大きく発展できる魅力、底力、可能性がありながら
活かしきれていない



「道の駅」 第2ステージへ